様式3

学校番号 55

令和　7　年度　学校評価書　（ 計画段階 ）

福岡県立　福岡農業　高等学校　専攻科

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	将来の福岡県の農業・生活産業を支える人材を育成する学校 最先端の農業技術を駆使した研究や食品の開発や製造、都市近郊の広大なフィールドを活用した実習を通して、福岡県の農業や農業関連産業をけん引する次世代のリーダーを育成します。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に 関する方針）	・農業や食品分野の中核的存在として活躍できる専門知識・技能を育成する。 ・豊かな人間性と高いコミュニケーション能力を育成する。 ・グローカルな視野を持ち、地域社会や国際社会に貢献できる能力を育成する。
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に 関する方針）	・実践的科目編成によって、課題解決能力の育成を図る。 ・国際理解教育を通して、多様性、言語能力を高める教育展開を行う。 ・主体的、対話的で深い学びに繋がる授業展開を実施する。
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに 関する方針）	・高い志を持ち、農業や食品分野の未来を創造する進路を希望するもの。 ・農業や食品分野及び地域産業の発展に貢献できるもの。 ・互いの多様性を認め、協働できるもの。

様式3

学校運営計画（4月）			
学校運営方針	校訓「自彊」（自らすすんで努力し、励むこと）に基づいた学校経営を行う。 （1）高い志を持ち、知・徳・体のバランスの取れた、農業の未来を創造する学生の育成をめざす。 （2）農業及び地域産業の発展に貢献できる優れた人材の育成をめざす。		評価 （総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
【令和6年度の成果】 1　進路実現のため、社会人招聘や外部研修等を実施し、キャリア教育の充実を図った。学年及び各専攻が進路指導部と連携し、2学年の希望進路実現に取り組むことができた。 2　オープンキャンパス、学園祭では、学生が主体的に活動し、本科の教育活動を来場者に伝えることができた。また、HPの専攻科日記の日々の更新やInstagramを利用した広報活動は効果的な情報発信につながった。 【令和6年度の課題】 1　専門性を生かした進路を選択し、中核として活躍できるよう、特別非常勤講師と連携した講義、研究を行い、より高度な専門性を身に付けさせる。 2　社会の変化と時代のニーズにあった教育活動を実施するために、教員の研究や研修を計画的、継続的に実施する。 3　専攻科の教育活動をより広く、伝えるためにSNSの活用など広報活動を工夫するとともに、各農業高校に専攻科の研究成果等を還元する取組を実施することで魅力発信に努める。	社会の進展に対応した魅力ある教育活動の実施に努めるとともに、技術革新、国際化、情報化に対応できる実践的能力を育成する。	「専攻科実験実習」や「卒業研究」を通して、確かな知識・技術の習得を図るとともに、科学的思考力やプレゼンテーション能力を育成する場面を作る。	
	新カリキュラムの特性を効果的に活用し、学生の特性・適性に応じた進路支援を推進することで、専門性を生かした進路実現を支援する。	特別非常勤講師と正規教職員が連携し、教科横断的な授業展開を実施する。専門性を生かした多様な進路実現（大学編入も含む）に向けた指導を行う。卒業生講話やインターンシップを実施する。	
	教員の個人研究や専門性向上のための研修を推奨し、授業改善と教科指導力の向上を図る。	研修会の参加や企業、大学視察を通して先進的農業や先端研究などの情報収集に努め、研究紀要への投稿や校内研修会を実施し、職員相互の資質向上を図る。	
	幅広い高校を対象として積極的な広報活動を行い、専攻科の魅力ある教育内容を発信する。	ホームページとインスタグラムによる情報発信を活発に行うことで、高校生、保護者、地域に教育活動を発信する。年間3回の中学校訪問を行う。オープンキャンパスの内容の改善を図る。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の項目等	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等
教　務	入学志願者の増加を図り、定員を確保する	各専攻に対して専攻科日記への月1回以上の掲載を依頼する。	オープンキャンパスや専攻科特別講義におけるアンケート、HPのアクセス回数	
		高校の進路ガイダンスへの参入を依頼する。		
		出前授業や専攻科特別講義など高校との連携を深める。		
	教務規範を遵守する	渋滞や災害による遅延に対する時間補充の措置を考える。	授業アンケート（年2回）	
		教務規定改訂について職員の共通認識を得るとともに、学生にむけての周知を図る。		
		授業アンケートをとり、結果を職員に配布し、授業改善を促す。		
生活指導	大人として自覚ある行動ができ、社会で通用する能力を有する学生を育成する。	成人として学生を育成する指導、支援を随時行う。	日頃の指導、支援の方法や満足度に関する調査	
		豊かな人間性及び社会で通用する能力を養わせる指導、支援を行う。		
		職員集団が学生に大人としての対応等が見受けられる環境を構築する。		
	校友会組織の活性化を図り、充実度を80%以上目指す。	校友会を中心に、学生が主体的に活動できる自治活動組織となるよう指導、支援を行う。	校友会活動の充実度に関する調査等	
		全学生が目標達成に向けて見通しを持って行動できる組織となるよう指導、支援を行う。		
		校友会で行う行事を中心に主体的に活動することができ、満足できるような行事を行えるように指導、支援を行う。		

様式3

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の項目等	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等
進路指導	学生が希望する進路の早期決定を目指す。	企業や大学の説明会等の開催情報をいち早く入手し、学生に公開する。また学生自身の情報収集活動も促す。	各学年で進路希望調査を行い一覧表を作成する。 活動に関する一覧表は職員が閲覧可能の状態にする。 支援事業については毎回、アンケート等を書いてもらい今後の事業の参考とする。	
		担任及び学科専攻の職員と連携し学生の進路希望を集約し、職員が情報を共有し支援する。		
		学生の就職活動、進学活動に有効な支援事業を企画する。		
	適切な受験指導を行い、合わせて社会人に必要なマナーの習得も促す。	スマートフォンやPCによるWEBでの説明会・面接に対応できるように支援し、利用に関するマナー指導も行う。	就職・進学の説明会、及び受験報告等、報告書の作成をしっかり行い、自身のスキルアップと今後の参考資料とする。 定期的に進路調査を行い、未定者を支援する。	
		企業や大学の説明会及び受験に際して事前指導や事後指導を行い、今後のスキルアップのために報告書の提出を求める。		
		就職試験・進学試験等の受験指導を専攻・学科を中心に連携して行い、7月までに70%の合格を目指す。		
庶務	70周年記念事業の充実を図る。 後援会活動の充実を図る。 同窓会総会の充実を図る。	70周年記念事業の研修先を海外に設定することで、研修内容をさらに充実させる。	70周年記念事業研修旅行の内容・改善点についての調査 総会の内容についての調査	
		専攻科の教育活動をご理解いただくために、後援会総会への出席率4割以上を目指す。		
		専攻科卒業生のうち教育関係者の所属先を明らかにし、同窓会総会の出席者数10名以上を目指す。		
	諸行事のスムーズな運営を図る。	学生・職員・後援会・同窓会・事務室など各関係部署と連携を取りながら、事前に行事の準備を行う。	行事の内容・進行（準備）・改善点についての調査	
		定期的（週1回）に庶務会議を行い、役割分担や進捗状況を確認することで、スムーズな行事の進行に努める。		
		行事終了後にアンケートを実施し、各行事の見直しを図り、効率化するともにより充実させる。		
1学年	成人としての自覚と責任ある行動がとれるようになる。	自己の生活習慣を考えさせ、改善すべきは改善できるようにアドバイスする。自助と共助を考えさせ、自主的な行動ができるように促す。	授業アンケートから授業への取り組みを検証。学校生活における、社会性、協調性についても自ら検証させる。	
		前期・後期2回以上の面談を行い、自身の行動を考えさせる。		
		掲示板連絡を主とし、直接の連絡は必要最低限にする。		
	進路目標を早期に決め、具体的に行動できるようになる。	適時面談を行い、進路実現について支援する。	進路希望調査を参考に進路実現へのアドバイスを行う。。	
		12月までに80%以上の学生に具体的進路目標を決定させる。		
		進路部と連携し、企業・学校等、具体的な対策を立て支援する。		
2学年	自律から自立へ、自彊の精神を身につけ、社会で即戦力となれる人材となることを目標とする。	学校行事等の計画に沿った生活、体調管理ができるよう指導する。	指導、支援の方法やタイミング、満足度に関する調査	
		個々の目標達成に向けた見通しを自ら立て、実行できる能力を養わせる指導、支援を行う。		
		学生の課題解決に向けた指導、支援を適時行い、その方法を習得させる。		
	1年次に行ったキャリア教育を基にして、8月までに80%以上、12月までに90%以上の進路決定を目指す。	担任及び各専攻職員並びに進路指導部と学生の情報を随時共有し、状況に応じた個別対応を行う。	進路活動の指導、支援の方法や満足度に関する調査	
		普段から学生とコミュニケーションを図り、個々の進路活動状況を把握し、必要に応じて指導、支援を行う。		
		進学及び就職に関する情報を掲示し、併せて学生への周知を徹底する。		

様式3

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の項目等	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等
生物生産科	専攻科の学習内容を生かし、農業関連企業への就職率80%以上を目指す。	週1回学科会議を行い、学生の状況等を全員が把握する。	進路希望調査から意識度を判断。就職活動の状況把握を学科会議で行う。	
		進路部と連携し、具体的な企業とそれ応じた対策を立て指導する。		
		学生の能力と進路に対する意識を確認し、どのような指導をするべきか検討する。		
	シラバスに沿った教育活動と、効果の上がる指導内容を確立する。	各専攻で特色のある授業内容を構築し、実践する。	授業アンケートを活用する	
		学習評価を明確にし、学生が目標設定しやすいようにする。		
		授業アンケートの結果を参考に授業の改善を図る。		
食品工学科	学科全体の専門性を高め、学生に科学的な視点、専門的知識及び技術を習得させる。	卒業研究、専攻実験実習及び専門科目において、レポート等を課し知識の定着を図る。	授業アンケートを活用する。	
		学生が主体的に活動できる環境を確立させ、問題解決能力を習得させる指導、支援を行う。		
		学生の実態を把握したうえで学科の独自性を鑑み、学生、職員ともに向上できるような活動を行う。		
	食品関連産業への進路実現80%以上目指す。	学科会議において、学生の状況を職員間で共有する。	進路部の就職活動の進捗状況を活用する。	
		専攻を中心に進路部と連携し、学科全体で学生の実態に応じた進路指導、支援を行う。		
		学生に早期取り組みを促し、企業への訪問や研修に出向くよう指導する。		